



議会だより

# わどまり



第156号

## Contents

こんなことが決まりました	2P
6名の議員が町政を問う	3P
奄美群島市町村議会議員大会	9P
絆のバトン・編集後記	10P



上の二次元コードをスマートフォンなどで読み取ると、町議会のホームページにリンクします。

■令和4年 第2回 定例会 (6月7日～10日)

議案等番号	件名	議員名 (議席番号順)											議事結果	
		山口明日香	島田浩樹	森富隆	川畑宏一	池田正一	喜井和夫	児玉実隆	東弘明	中田隆洋	山下幸秀	桂弘一		永野利則
報 3	事故繰越明許費に係る事故繰越計算書について	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
報 4	繰越明許費に係る繰越計算書について	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
報 5	繰越明許費に係る繰越計算書について	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
報 6	繰越明許費に係る繰越計算書について	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
陳 5	義務教育費国庫負担制度負担率の堅持(引き上げ)をはかるための、2023年度政府予算に係る意見書採択の陳情について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	採 択
陳 6	ゆたかな学びの実現・教職員定数改善をはかるための、2023年度政府予算に係る意見書採択の陳情について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	採 択
承 3	専決処分の承認を求めることについて(和泊町税条例の一部を改正する条例の制定について)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
承 4	専決処分の承認を求めることについて(和泊町国民健康保険税減免条例の一部を改正する条例の制定について)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
承 5	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度和泊町一般会計補正予算 第10号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
承 6	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度和泊町一般会計補正予算 第11号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
承 7	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度和泊町国民健康保険特別会計補正予算 第5号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
承 8	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度和泊町介護保険特別会計補正予算 第4号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
承 9	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度和泊町後期高齢者医療保険特別会計補正予算 第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
承 10	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度和泊町下水道事業特別会計補正予算 第5号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
承 11	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度和泊町農業集落排水事業特別会計補正予算 第4号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
承 12	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度和泊町奨学資金特別会計補正予算 第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	承 認
議 26	和泊町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 27	和泊町農業振興基金の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 28	和泊町地域交流施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 29	和泊町辺地に係る総合整備計画の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決
議 30	和泊町過疎地域持続的発展計画の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決
議 31	令和4年度和泊町一般会計補正予算(第1号)の議決について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 32	令和4年度和泊町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)の議決について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
発 3	議会議員の報酬の特例に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決
発 4	教職員定数の改善及び義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決
	議員派遣について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決
	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出書について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決
	各常任委員会の閉会中の継続調査申出書について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決

※永野利則議員は議長職のため、特別多数議決以外の議案については表決(賛成・反対の意思表示)権はありません。

# NEXT

## ココが聞きたい 一般質問 町政を問う!!

令和4年第2回  
議会定例会

●中田 隆洋議員  
持続可能な島の  
発展を目指して…… P3

●池田 正一議員  
町民の笑顔、  
子どもの歓声のために … P4

●山口 明日香議員  
子育てしやすい  
まちづくりを…… P5

●島田 浩樹議員  
活力・魅力ある  
まちづくりを!! …… P6

●川畑 宏一議員  
財政状況に即した  
計画へ見直しを! … P7

●東 弘明議員  
子どもの未来を拓く …… P8

### 持続可能な島の発展を目指して



なかだ たかひろ  
中田 隆洋 議員

#### 脱炭素先行地域計画について

##### 問

「ゼロカーボンアイランドおきのえらぶ」として国の脱炭素先行地域の指定を受けたが、以下の項目について具体的にどのような事業を行うのか。  
①マイクログリッドの構築について

##### 答

島内を複数の領域に分け、領域ごとに太陽光発電や風力発電、電力の供給バランスを整えるエネルギーマネジメントシステム、蓄電池などを導入し、再生可能エネルギーを主力電源とする小規模なエネルギーネットワークの構築を考えている。

②公共施設の省・創・再工ネについて

##### 答

公共施設の屋根や駐車場などに太陽光発電を設置し、LEDや蓄電池の導入を進める計画である。

#### ③EVの促進について

##### 答

公用車を順次、EV（電気自動車）へ切り替えていく。また、町民に対する軽トラックEVの購入補助や、高校生に対するEバイクの購入補助、EV車両整備事業者の技術習得の支援、EV充電スポットの環境整備などを計画している。

##### 答

④生ごみの資源化について  
一般廃棄物として町が収集している生ごみを小型メタンガス発酵装置によるバイオガス発電や液肥化して活用する考えだが、資源化には様々な方法があることから、さらに情報収集



▲ Eバイク

に努め、良い方法を検討し決定していく。

#### 一般質問とは??

議員が町の行財政全般について、事務・予算等の執行状況や、今後の考え・方針を聞き、疑問点を質すこと。



町民の笑顔、子どもたちの歓声のために



池田 正一 議員

新型コロナウイルス感染症対策について

**問** ワクチンの接種や問い合わせ状況は怎么样了か。

**答** 5月29日時点で12歳以上では、1回目接種率が89.3%、2回目88.0%、3回目73.4%となっており、4月中旬から開始された5歳から11歳では、1回目9.9%、2回目2.2%となっている。

接種希望者から時期や医療機関等についての相談や、小児については接種状況や接種の時期についての相談・問

い合わせがあるが、主治医や家族と相談して、接種の有無を決めていただきたいと助言など対応している。

今後、60歳以上の方や18歳以上60歳未満の方のうち、基礎疾患を有する方等への4回目接種を予定している。引き続き、3回目接種も着実に進めつつ、5歳から11歳までの子どものワクチン接種についても接種機会の確保に努めていく。

**問** 今後、コロナ禍でのイベント等の開催はどのように考えているか。

**答** 基本的対処方針が一部変更され、身体的距離が確保できないが、会話をほとんど行わない場合のマスク着用の考え方などが明確化されたところであり、イベントの開催についてもその時の感染状況に応じた必要な感染防

止対策が示されている。

今後、屋内・野外での各種各団体によるスポーツイベントや敬老会をはじめとした地域での各種行事も計画されていると思うが、基本的な感染対策である、二つの密の回避、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗い等の手指衛生」、「換気」等の感染症防止対策を徹底し、感染リスクを極力抑える取り組み等も検討し、開催の可否を決定していく必要があると考える。

**和泊町総合交流アリーナ(仮称)建設事業について**

**問** 昨年度から4会場で町主催の建設事業説明会が開催されているが、町民の反応はどうだったか。また、今回は町の一方的な説明会だった

が質疑応答もできる語る会等を開催する考えはないか。

**答** 今回の町民説明会は、建設候補地や施設規模

について、町民から意見をいただくために開催した。会場にお越しいただいた町民の皆様から、建設候補地の地質が心配・施設規模が大きすぎるとの意見をいただいた。

今後、説明会での意見やこれまでのアンケートを検証し、建設候補地と施設規模を決定した上で、事業費を算定する。

旧町民体育館の解体後、各小・中学校の体育館などの現況施設を活用しているが、活動等に支障を来している。しかしながら、現在の経済状況は、円安や資材価格の高騰により、今すぐ建設に着手できる状況にはない。

今後、本町の財政状況や国内の経済状況も見据えながら、一刻も早い建設に努める。

## 子育てしやすいまちづくりを



山口明日香 議員

## 子育て支援について

**問** 産前産後の支援サービスには、どのようなサポート事業があるか。

**答** 産前産後のサービスとしては、妊娠後に本人の申請に基づき母子手帳の交付を行い、定期的な健診と相談が受けられるようになる。妊娠期には、「両親学級」を妊娠中期と後期に分けて、医療機関と協力して年間8回開催している。必要に応じて、個別訪問や対面相談も実施している。出産後は、産婦健診や1か月児健診、乳児全戸訪問等を

行いながら、発達の時期に合わせた乳幼児健診と相談指導を行っている。今年度から産後ケア事業を新規に始め、出産後に育児支援等を特に必要とする母子に対し、心身のケア等を行っていく。子育て家庭の保護者をサポートする事業としては、「ほっとステーション」を設置する地域子育て支援拠点事業や、町内のこども園・保育所において、規定の範囲内で一時的に児童を保育する一時預かり事業、生後1歳半までの期間、乳児用品の購入に関して上限1万円を助成する乳児用品購入費助成事業を実施している。

**問** 令和3年第2回定例会で、0歳から2歳児の産前産後の継続通園について検討すると答弁があったが、その後どのような検討

がなされたか。

**答** 0歳から2歳児の産前産後の継続通園について、町内のこども園や保育所の運営は、子ども子育て支援法や児童福祉法及び労働基準法等に基づくものであり、現状として、産後8週間満了時に保育継続が必要と認められる、就労や保護者の疾病等の事由確認が必要となる。今後は、令和5年4月に創設が予定されている「こども家庭庁」における政策を注視し、活用できる事業の導入などにより、本町より良い子育て環境の整備に努めていく。

## 幼児教育の充実について

**問** 和泊幼稚園での幼児教育の充実については、どのように考えているか。

**答** 幼稚園教育において育みたい資質・能力は「生きる力」の基礎となるもの。

義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱がある。和泊幼稚園では特色ある教育活動として、豊かな感性を育む体験活動や親子ふれあい活動などを行っている。毎月「方言の日」を設け、方言に触れる活動も行っている。食育活動や園庭の環境整備を行い、島ならではの季節の果物や花、遊びの中で四季を感じ、豊かな心情をもち、感じたこと、考えたことを感性豊かに表現する子どもをめざす子ども像としている。今後、子ども一人ひとりに対する理解を深め、今必要な経験は何かを捉え、それに応じた援助、教育に努めていく。

活力・魅力あるまちづくりを!!



しまだ ひろき 島田 浩樹 議員

第8次和泊町行財政改革大綱について

**問** 大綱に沿った行財政改革の進捗状況はどのようになっているか。また実施計画の数値化はどのようになっているか。

**答** 第8次和泊町行財政改革大綱は、令和2年度から令和6年度までの5か年を計画期間としている。大綱の重点取組事項として「町民サービスの向上」「行政運営の効率化」「財政基盤の強化」の3つの事項を設定し、実効性のある行財政改革となるよう取り組んでいる。

大綱については、各課から提案のあった57項目を45項目に集約し、19項目の数値化を行った。今年4月に開催した行財政改革推進委員会の中で、実施計画の目標設定について審議したところである。

今後も、目標達成したも  
のについて再設定を行う等、  
適宜見直しを行い行財政改  
革に取り組んでいく。

ゼロカーボンシティについて

**問** 本町は令和4年1月に、ゼロカーボンシティ宣言をしているが、マイクログリッドの構築等の事業は、実現のためにどのような方策を講じていくのか。また、財政面でも多額の一般財源の負担が強いられるが、町民への説明会等は考えているのか。

**答** 温室効果ガスの影響による地球温暖化対策は、世界で取り組まれるべき喫緊の課題。

本町においては、誰もが心豊かに暮らすことのできる持続可能な社会を次世代の明るい未来に残すために、令和4年1月7日に「和泊町ゼロカーボンシティ宣言」を發出し、近年深刻化する二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目標に掲げている。

そのためには、両町における実施体制を確立し、民間企業との協力や、必要に応じて、住民向けの脱炭素社会の構築に向けた説明会を行うなど、事業の実現に取り組んでまいりたいと考えている。



総合交流施設建設基金について

**問** 基金積み立ての進捗状況は、どのようになっているか。また、早期建設に向けて基金の積み立て計画はどのようになっているか。

**答** 基金の主な財源は、今年度は2億円の寄付額を目標に取り組んでいる「ふるさと納税」。

今年度については、3638万9千円を「和泊町総合交流施設建設基金」への積立金として当初予算に計上している。

なお、今年度の「ゆりのふるさと基金事業」の活用状況やふるさと納税の実績によつて「和泊町総合交流施設建設基金」への積立額も変動する見込み。

今後も総合交流施設の建設へ向け、即効性の高い「ふるさと納税」の更なる増額へ積極的に取り組んでいく。

財政状況に即した計画へ見直しを!



かわばた こういち 川畑 宏一 議員

和泊町総合交流施設建設事業について

町民説明会の目的および今後の課題は。

課題として、建設候補地の地質が不適格であつた場合の用地確保や資材価格高騰による事業費の増額、町民運動広場に建設した場合には新たなグラウンドを整備する必要があること等が懸念される。

※目的等についてはP4池田議員への答弁参照。

事業名変更の理由は。

町単独での施設整備は大変厳しく、有利な補助事業を活用することが不

可欠。補助事業の対象を拡大するため「和泊町総合交流アリーナ建設事業」から「和泊町総合交流施設建設事業」へ変更した。

説明会実施を受け、「町長の方針が分かりづらい」との声が寄せられているが、町長の考えは。

今回の町民説明会は、答申を受けた「和泊町総合交流アリーナ整備基本構想・基本計画(案)」の建設候補地・施設規模に対する町民の皆様からの御意見を頂くために開催したものであり、建設再検討という私の方針が変わったわけではない。まだまだ課題も山積しており、一つひとつ解決に向けて検討していく。財源に限りはあるが、町民負担が抑えられる規模・時期を見計らい、皆様に喜んで頂ける施設建設に取り組み。

ふるさと納税について

体制強化やトップセールスにより初の1億円突破という成果を上げた「ふるさと納税」を、今後も成長させていくための課題や取り組みは。

令和3年度の実績は寄付金額1億3404万円、寄付件数5万3206件となり、返礼品を提供している商工・農林水産事業者等に、年間約4000万円の経済波及効果も生んでいる。課題として、平均寄付単価が約2600円と全国平均よりも低く、経費削減等の観点から対策が必要。

今年度は目標寄付額を2億円に設定し、返礼品の開拓・SNSを活用した情報発信等を積極的に行い、「ふるさと特産品支援事業」により、返礼品事業者の商品開発を支援していく。

ふるさと納税を持続的に成長させるためには、寄付者が共感できる使い道を提示する必要がある。また、利便性の向上や幅広い寄付者層を獲得するためポータルサイトの拡充を進め、沖洲会や各種イベント等にも参加し和泊町ファンを増やしていきたい。

一人暮らしの高齢者に対する支援の現状と課題は。

高年齢者福祉について

該当者は年々増加傾向にあり、令和3年9月1日現在で561名。

生活支援型ホームヘルプサービスや介護保険サービス等の利用に繋げ、併せて民生委員や各集落のサポーターによる見守りや緊急通報システム設置などを行っている。しかし、外出する際の移動手段や地域で集える場が少ないこと、郵便物が管理されていない等の現状があり、高齢者ご自身のニーズも多様化している中で、一人暮らしに不安を感じ島外の子どもの元へ転出するケースもある。一人暮らしの高齢者が孤立しないよう、地域や関係機関と連携して取り組み強化に努める。

子どもの未来を拓く



ひがし ひろあき 議員 東 弘明

子どもの福祉について

**問** 本町のヤングケアラーに対する支援に向けた取り組みはどのようなところか。

**答** 昨年9月に民生委員・児童委員の方々に各字の調査を依頼し、実情の把握を行った。また昨年12月には、医療機関・警察署・児童相談所等を含めた要保護児童対策地域協議会を開催し、児童虐待の相談や家庭における様々な問題への支援の在り方を協議し、現在も家庭に対しての支援を続けている。

教育行政について

**問** 登下校時に子どもたちが持つ荷物が過重であると考えられるが、荷物の持ち帰りについて各学校での指導はどのようなところか。

**答** 家庭学習で使用する予定のない教科書や教材等は学校に置いて帰ることを許可したり、習字用具や絵の具セット・裁縫セットなどは、学校で保管場所を設けたりしている。

**問** 土地改良事業による基盤整備が完了している地区で未整備ほ場の整備はできないか。

**答** 他事業であれば、地元要望により実施要件等を満たすことで、事業採択申請の可能性がある。

**問** 農業用貯水池のフェンス等の安全確保管理体制

制はどのようなところか。

**答** 耳付池で発生した件を受け、全てのため池の緊急点検・応急処置を行った。

**問** 住民生活等の負担軽減対策について

**答** 昨今の世界情勢の影響による原油・物価高騰から町民生活を守るために、どのような取り組みを考えているか。  
①学校・幼稚園・こども園の給食費や副食費等の保護者負担を増大させないことについて

**答** 令和元年度10月から令和3年度までは無償化を実施している。小中学校の給食費については、小学生1人当たり月額3300円、中学生1人当たり月額3600円を負担いただいている。

**問** 住民税非課税世帯などに対する臨時特別給付金の給付対象の拡大や、給付額の増額について

**答** 国の方針として、令和3年度は課税世帯で支

給対象外となったが、令和4年度に新たに非課税世帯となった世帯等に向けての特別臨時給付金の支給が行われる予定である。

**問** ③物価高騰により経費が増大した事業者に対し、必要な経営支援について

**答** 全世帯を対象としたプレミアム付商品券などを発行し、町内の事業所で利用していただくことで、各家庭の生活者支援と同時に町内事業者の支援を検討している。

**問** ④農業関係者への肥料高騰軽減やハーベスタ利用料金の負担軽減について

**答** 「令和4年度 新型」地方創生臨時給付金」で財政措置された「農林水産業原油・物価等高騰対策事業」を活用して、農林水産業者に対して、飼・肥料や燃油等の高騰分を助成するため事業要望を行っている。

## 第63回奄美群島市町村議会議員大会

令和4年5月10日(火)、奄美市市民交流センターにおいて3年ぶりとなる「第63回奄美群島市町村議会議員大会」が開催され、自治功労者の表彰・各町提出議題の審議等が行われた。

### 採択された議題 ◎さとうきびハーベスタ利用助成金の創設について

(和泊町・知名町・与論町) 提出 和泊町議会総務文教常任委員長 池田 正一

#### 「さとうきびハーベスタ利用助成金の創設について」

奄美群島の農業は、温暖な気象条件等を生かし、基幹作物のさとうきびと園芸や肉用牛を組み合わせた複合経営を中心に展開されており、国内農業のなかで、重要な役割を担っています。さとうきびについては、我が国における甘しょ糖の数少ない供給産地であるとともに、台風等の自然災害に比較的強いなど、奄美の自然条件に適した作物であり、農家の約8割、農地の4割で栽培され、地域の農業で重要な地位を占める基幹産業となっています。

また、甘味資源は、国の食料供給の中で非常に重要な要素を占めており、さらに主要産地は南北にあり、単なる甘味資源だけでなく国防安全保障の面からも国策上重要な位置づけとなっています。さとうきびは国策上、国防上はもちろん農家だけでなく地域経済、雇用確保にまで関係する重要な作物であるといえます。

しかし、人口減少や農業従事者の高齢化など農業・農村の構造が変化する中で、将来にわたり地

域農業の維持・発展を図るため、高齢農業者の豊富な経験や知識・技術を生かした生産活動等を支援するとともに、高齢者が生産活動や地域づくりに参画しやすい地域営農の仕組みづくりを促進する必要があります。

また、小規模農家が奄美の農業を支えているという実情の中、更なる過疎化を招かぬよう担い手への農地集積・大規模農家の育成と併せて小規模農家に対する施策の充実強化も重要であります。

そのようなことから、小規模農家や生産農家の高齢化に対応するため、さとうきびの生産・収穫作業を主体とする受託事業により、さとうきびの生産維持と品質向上に努めているところでありますが、複合経営による農家の経営向上を図ることを目的とした収穫作業のハーベスタ委託の需要が増加する中、生産コストの低減及び生産構造の強化を図るため、国費によるハーベスタ利用助成金の創設をしていただきたく強く要望いたします。

### 自治功労者表彰

○町村議会議長として6年以上在職

議長 永野 利則 在職年数6年



○町村議会議員として10年以上在職

議員 桂 弘一 議員 中田 隆洋





をうがみやぶら！水嶋  
です。仕事は、新聞記者  
と外国人支援をしていま  
す。島生活3年目。短い  
ですね。でも、昔から島  
に通っていたえらぶ二世  
です。それまでいたとこ  
ろはベトナム。フォーや  
生春巻き、戦争映画が  
たくさん撮られた、あの  
ベトナムです。

向こうでは、ライター  
(記者)をしていました。  
取材と執筆の日々で8  
年が経ち、2019年の  
冬にえらぶに寄ったと  
き、島で働くベトナム  
人の方が100人近くも  
いると知って驚いて、  
縁を感じて移住。一人  
暮らしの祖母に孝行し  
ようかなという気持ち  
もありました。

仕事は外国人支援と  
書きましたが、たとえば、  
写真のような、絵と日  
本語と外国語の組み合  
わせをつくって会話や  
仕事の手助けをしてい  
ます。「コミグラム」と  
いう名前です。



おいしい  
oisii  
Ngon  
ンゴン

和泊町に暮らす外国人  
の人数を知っています  
か？昨年6月末で102  
人。町民60人あたり1  
人、これは県内43市  
町村中7位！奄美群島  
12市町

村では和泊町が1位、  
知名町が2位。最近  
はインドネシア人の  
方が増えています。

10年後の日本は、  
外国人と暮らすこと  
も日本人が海外で暮  
らすことも今以上に  
当たり前。だから子  
どもたちよ、英語を  
覚えよう！…ではな  
く。まず、自分と違  
う「当たり前」をた  
くさん知ってほしい  
。えらぶは、実は  
すぐく時代を先取り  
している、恵まれた  
環境なのです。

島の外国人の方の  
多くは基本的な日本  
語を話せます。ゆっ  
くり、ていねいに、  
ですます調で。伝  
わらなければ言い方  
を変える。それだけ  
で会話はぐっと簡  
単になります。あな  
たが外国で不安を感  
じると思うなら、日  
本にいる外国人の方  
も同じです。気軽に  
声をかけてください  
。「えらぶに来てよ  
かった」「また来たい  
」と言われる島にし  
ましよう。



プロフィール

水嶋 健 さん(38歳)

大阪出身のバレンタイン  
生まれ。2021年8月に  
合同会社オトナキ設立。  
物書きと外国人支援の  
二本柱で活動中。島の  
イベントを配信する  
LINE公式アカウント  
「えらぶカレンダー」も  
運営。ニックネームは  
「ネルソン」「ネル  
さん」。

自分と違う「当たり前」を知ってほしい

編集後記

議会だよりの編集員として、約2年を迎えます。議会での議論・結論を町民の皆様、子どもたちに分かりやすく伝えるには、どうするかを考えながら編集を行っています。

紙面では十分ではないところもありますが、今後も分かりやすい町民参加の広報作りに努めていきたいと思ます。

文責 島田 浩樹

- 発行責任者
- 議会議長 永野 利則
- 編集責任者
- 委員長 野 利
- 委員 中 児
- 委員 山 島
- 副委員長 田 田
- 委員 明 日
- 委員 香 樹
- 委員 隆 洋
- 委員 実 隆
- 委員 浩 樹